

台湾のバンド

蘇打綠 Sodagreen

羅筱茹(ロジャオル)

基本情報

おすすめの理由

魅力



私は台湾のバンド蘇打綠(ソーダグリーン)について話したいと思います。なぜこのテーマを選んだかというと、台湾の曲をもっと多くの人に知ってもらいたいからです。日本人と話す時、おすすめの台湾の曲は何かというのはよく聞かれる質問の一つです。しかし、自分が大好きな蘇打綠は日本のバンドとコラボレーションを行なった事がないので、日本人にあまり知られていません。ですから、このきっかけに蘇打綠の魅力をいくつか紹介したいと思います。

ソーダ + 緑

「ソーダ水のような爽やかで透明感のあるイメージは、自分たちの音楽性にぴったり合う」



ボーカル
青峰

では、まず、蘇打緑の基本情報について話します。バンドの名前は、「ソーダ水のような爽やかで透明感のあるイメージは、自分たちの音楽性にぴったり合う」ということでソーダという言葉を入れ、それにボーカル青峰の一番好きな色である緑(グリーン)を組み合わせ付けてられました。

2001年

- ・台湾の大学生六人によって結成
- ・卒業で元々2003年に解散のつもりだったが、解散コンサートで恩師と出会い

それから17年間
曲を送り続けている

貢寮ロック・フェス



蘇打綠は2001年に台湾の大学生六人によって結成されました。蘇打綠は元々2003年に解散するつもりだったのです。というのは、全員が大学を卒業したらそれぞれの道を歩むから、音楽を断念するだろうと思っていたからです。最後にもう一度だけでも、蘇打綠としてコンサートをしたかったので、解散コンサートの名目で台湾の音楽フェスティバルへ出演しました。ところが、蘇打綠はそこで音楽プロデューサーの恩師と出会い、それから17年間ずっと人を癒す力のあるような曲を送り続けています。

蘇打緑の魅力ー

楽曲が様々な工夫されていること

四季シリーズ

- ・作曲家ヴィヴァルディの「四季」からインスピレーションを
- ・季節の変化に関わっている人間の生活について

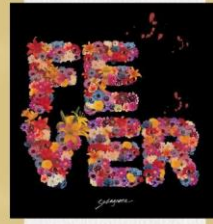


次に、私が考える Sodagreen の魅力をアルバムと一緒に紹介していきます。まず、蘇打緑の楽曲は様々な工夫がなされています。例えば、四季シリーズは 2009 年から 6 年にわたって、季節に沿った 4 枚のアルバムに仕上がっています。彼らは季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付き、作曲家ヴィヴァルディの「四季」からインスピレーションを得て、季節の変化に関わっている人間の生活についての音楽作品を作りました。一例として、四季シリーズの曲はアルバムごとに曲の名前を繋いだら詩になります。



春・日光

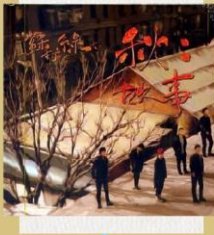
- 台湾の台東を舞台に
- ノスタルジックなフォーク調サウンド



夏/ 狂熱

- イギリスのロンドンでレコーディング
- UKロック風

秋: 故事 (物語)



- 中国北京
- 哀愁漂う音色の中華伝統楽器で
- 新旧文化が交錯する雰囲気、行き交う人々の希望と失望という気持ちを物語のように綴っている



冬、未了

- クラシックの殿堂—ドイツ・ベルリンで
- ジャーマン・ポップス・オーケストラと全編にわたり共演

また、四季シリーズにはそれぞれイメージ都市も設定されています。第1弾の「春」は、台湾の台東を舞台にしてノスタルジックなフォーク調サウンドを中心にしています。第2弾の「夏」はイギリスのロンドンでレコーディングされたUKロック風な作品です。第3弾の「秋」は北京が舞台です。哀愁漂う音色の中華伝統楽器で、新旧文化が交錯する北京の街の雰囲気や、そこを歩き交う人々の希望と失望が入り混じった気持ちを物語のように綴っています。最後の「冬」はクラシック音楽の殿堂として知られているドイツ・ベルリンが舞台で、ジャーマン・ポップス・オーケストラと全編に渡り共演しました。つまり、Sodagreenの音楽を聞いたら、彼らがいろいろなスタイルを取り込みながら、Sodagreenとしての音楽スタイルを作り続けているのが感じられます。

蘇打緑の魅力ー

曲は彼らの世界観を形作っていること



シーシュポスの神話ー
「無駄な労力」というの象徴

「冬」アルバムは

- ・シーシュポスの神話をテーマ
- ・季節の循環対永劫回帰
- ・ナチス強制収容所、ベルリン壁を題材

さらに、曲のコンセプトは彼らの世界観を形作っているとも言えます。例を挙げると、「冬」というアルバムは、ギリシア神話に登場するシーシュポスの物語をテーマとして、季節の循環というような、終わりは新たな始まりでもあるという永劫回帰コンセプトを巡って作られています。つまり、「冬」はナチス強制収容所の歴史、ベルリンの壁、チェルノブイリ事故を題材に、人は歴史を忘れ四季と同じように間違いも繰り返してしまうということを伝えています。

非主流のバンドとして

なぜ中華圏で大人気？

- ・ 聞く人の気持ちを理解し寄りそってくれる音楽
- ・ ボーカル青峰の声がハードウォーミング
- ・ 文学作品とも呼べる深いメッセージが埋め込まれている歌詞

最後に、蘇打綠は非主流のバンドなのですが、幅広い年齢層の人々に人気がある理由を説明します。まず、蘇打綠の音楽は気分が上がるというより、聞く人の気持ちを理解し寄り添ってくれるようなものです。ボーカル青峰の声がハードウォーミングで、穏やかに伸びやかに聞いているだけで気持ちが晴れます。しかも文学作品とも呼べる美しい歌詞が特徴です。蘇打綠の歌詞には他のバンドにはない哲学的な、深いメッセージが埋め込まれています。私も蘇打綠を通して中国の詩から欧米ギリシア神話までの文学作品に触れることができました。蘇打綠の曲は歌詞を見ずに聞いてもヴォーカルの声にひきつけられますが、歌詞の意味を理解しようとしたら、彼らの曲を余計に楽しめます。

以上、蘇打綠について説明してきました。少しでも海外の方に蘇打綠の魅力に気付いてもらったら嬉しいです。

参考文献

- C-POP【蘇打綠 Sodagreen(ソーダグリーン) 入門編】 https://woitw.com/taiwan-information/entertainment/c-pop/20171213_sudalu
- 注目度No.1バンド蘇打綠(ソーダグリーン) <https://shop.plaza.rakuten.co.jp/asia-music/diary/detail/200910290000>